

アマチュアバスケットボール界の現状と課題

The present condition and challenges of amateur basketball society

1K08A082-9

清野 雅子

指導教員 主査 太田章 先生 副査 関一誠 先生

序論 筆者は、中高6年間バスケットボールを続けてきたが、大学に入り、バスケットボールを辞めてテニスを始めた。それを機に、「バスケットボールは、成人になってからマイナースポーツという印象になってしまい、子供から高齢者まで一生涯実施出来るテニスのようなスポーツでないのはなぜか」という疑問にぶつかり始めた。本研究の目的は、この疑問の解決を図るために、アマチュアバスケットボール界の現状と課題を見出し、一生涯実施出来る「生涯スポーツ」にするための施策を考案する。そして、最終的にこれらの研究結果を、バスケットボール界の繁栄に繋げていくことに少しでも貢献したいと感じている。

1章 2章以降のバスケットボール界の分析に対する理解をスムーズにするために、バスケットボールの歴史や競技概要を述べることでバスケットボールに関する基礎知識を深める。

2章 2章ではまず、バスケットボールをテーマとする作品（フィクション）を視聴・体験することで、バスケットボール界のいまについての予測をたてた。そして次に、日本の競技推計実施人口（ファクト）からもバスケットボール界のいまについて、分析した。その結果、10代と成人・中高年者との間にバスケットボール実施率の差が大きく開いているという考察に至り、「バスケットボールは、生涯スポーツではない」という仮説を立てた。

3章 ここでは、2章で立てた仮説を確かなものにすべく、それでは生涯スポーツの定義とは何か、生涯スポーツの社会にもたらす価値とは何かを、文献を基に調べた。そして、バスケットボールと様々な生涯スポーツを比較することで、双方の根本的な違いを示唆した。また、バスケットボールを、子供から高齢者まで一生涯実施することのできる生涯スポーツにすべき理由を考察する。

4章 2、3章で立てた「バスケットボールは生涯スポ

ーツではない」という仮説を更に明確にするため、またどうして生涯スポーツにならないのかということを今後分析していくために、実際のアマチュアプレーヤーに対するアンケート調査を行った。被験者は、バスケットボールを1回でも実施したことのある10代・成人・中高年者各20名のアマチュアプレーヤーである。アンケート内容としては、「いつでもどこでもだれでもできる」という生涯スポーツとの違いを明らかにするために、バスケットボールの＜環境や施設・指導者・バスケットボールに関する知識や情報の量・自己の体とバスケットボールのプレー＞の4つの設問に対するアンケート調査である。そして4章では、その結果を示すことで、年代毎にアンケートの回答に大きな違いがあることが分かった。その違いこそが、年代別実施率に差を引き起こしているのである。

5章 5章では、4章の被験者の考えを基に、アマチュアバスケットボール界の現状の把握をし、＜環境施設間・指導者不足問題・情報量問題・フィジカル的問題＞それぞれにおいて、バスケットボールが生涯スポーツとしない理由や課題を追求し、課題解決のために筆者の考案した解決施策を提示した。

6章 6章ではこの卒業論文のまとめを記載した。本論文のアマチュアバスケットボール界の現実に対する課題は筆者の考察したものだけに留まらないはずである。しかし、少なくともこの課題をクリアすることができれば、バスケットボールを実施しようと思うことのできるプレーヤーの年代幅は確実に広がると思う。そして、生涯スポーツと断言できるようになるまでには長いスパンでこれらの解決を図らなければならないが、この一つ一つの解決が、生涯スポーツに近づく一歩になるのではないだろうか。そして、その一歩は、確実にバスケットボール界の繁栄につながっていくはずである。